おかやまから発信する 持続可能な社会のしくみ　ナレーション原稿

プレゼンター　おかやま都市ビジョン研究会 高井たかし・尾崎ともよし

2014/11/16 勤労者福祉センター にて

おかやまから発信する持続可能な社会のしくみ

おかやま都市ビジョン研究会

高井たかし・尾崎ともよし

ESD ということですが、

「持続可能な開発のための教育」ということで、

環境、貧困、人権、平和などの課題を解決して、持続可能な社会を創るために、どのような教育をすればいいかということです。

私には、積極的な解決というよりも、問題先送りのような印象があります。

私たちが解決すべき課題とその原因

人類は様々な問題を抱えています。

それらの問題の背後にはお金、経済の問題が潜んでいます。

これはポール・クルーグマンというノーベル経済学賞受賞の経済学者です。

「アメリカも日本も景気は行き詰まっている。

ヨーロッパはすでに深刻な状況だ。」と言っています。

景気が行き詰まっているということは、お金の循環が悪く、不景気だということです。

この人もノーベル賞経済学者で、スティグリッツという人です。
「まさに危険な状態にある」と言っています。
残念ながら、経済学者も、政治家も、知識人も、この問題を解決する決定的な方法が分からずにいます。

お金は価値の尺度であり、より大きな価値を生み出した人がそれに応じて豊かになることにより、社会の公平が保たれます。しかし、現代の金持ちの多くはそうではありません。お金は私たちが生活に必要な物やサービスを交換し合うための道具です。
しかし、生活とは無縁の投機的マネーが世界中を駆け巡り、それが私たちの生活に悪影響を与えています。

ちなみに、明日、11 月 17 日は「格差をなくす世界一斉行動の日」だそうです。
これは、アメリカで、上位１%の持つ資産だけが増え続けているという状況に対して、金融の町「ウォール街を占拠せよ」のデモに集まった人たちです。私たちは「私達は 99%だ」、「アンフェアだ」と訴えています。ウォール街のトレーダーの平均年収は数千万円です。

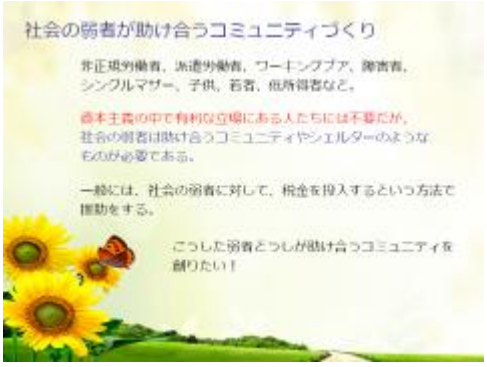
「もはや市場は公平ではないし、国家は民主主義の場ではない」
と言っています。

解決策はないのでしょうか？
こんなに科学が発達した時代なのに、解決できないんでしょうか？
江戸時代に比べて、家事労働は劇的に楽になりました。
それはインフラ整備や家電製品のおかげです。
ならば、私たちの社会の仕事も同様に楽にならなければおかしいと思いませんか？

その違いはどこにあるか分かりますか？

家事労働が、掃除、洗濯、炊事といった仕事を効率よく片付ければ生活にゆとりができるのに対し、社会での仕事は、誰かが仕事をしてくれたのではいけなくて、自分が仕事をしなければいけない、自分の会社の商品が売れなければならないというところにあって、そのために、無駄な仕事の奪い合いが発生するのです。

それが、これらの問題につながっています。



資本主義社会で有利な立場の人には必要ないが、99%の側の庶民、特に社会の弱者の側の人たちには、資本主義の冷たい雨風から守られた、助け合いのコミュニティやシェルターのようなものが必要です。

一般には、行政が税金で支援したりしますが、この財政難の時代なので、弱者同士が助け合うことによって、それを実現したいと思うし、私はできると考えています。

世界の人口は約 72 億人ですが、大部分の人が貧困層です。

格差は年々拡大し、現在の人口の 2 倍を養える食糧が生産されているにも関わらず、世界の半分が飢えています。

もはや、お金はその人の社会貢献度をはかる指標ではなくなっています。

ならば、私たち一般市民の中で流通する新しいお金を作って、それによって、互いの商品やサービスを交換、流通させていけばよいのではないでしょうか？

ここからは、

助け合いを促進する「温かいお金」が循環する

新しいコミュニティを創ろう！

という話になります。

「バイオミメティクス」という考え方が近年注目されています。

生体模倣技術と訳されたりします。

蚊の針を研究して、痛くない注射針が発明されたり、カタツムリの殻に汚れがつきにくく、落ちやすいことを研究して、外壁材が発明されたりしています。

あさはかな人間の知恵ではなく、自然の叡智に学ぶということです。

お金は血液のようなものだとしばしば言われ、景気の悪い状態を血液の循環が悪いことに喩えられます。

ならば、人体の循環システムを経済の仕組みに応用すれば、お金の循環の良い経済システムが構築されるのではないでしょうか？

すみずみの細胞にまで血液が栄養や酸素を行き渡らせるしくみを応用すれば、お金が私たちの間をくまなく循環するようになるかもしれません。

では、新しいお金のしくみを考えてみましょう。

まず、個人に１つの電子マネー口座を与えます。新しいコミュニティでは、日本円から独立したポイントのような通貨が使われます。携帯端末やパソコンで手軽に使えるようにします。

買い物の履歴も見れて、便利ですね。

その口座には上限額を設定します。それを超えた分はコミュニティの税として徴収されます。

細胞に貯められる酸素や栄養には限りがありますし、私たちもお腹いっぱい以上には食べられません。

食欲や睡眠欲など、生命に直結した欲には限りがありますが、金銭欲には限りがありません。金銭欲が限りのある欲になると、私たちも分かちあったり、譲りあったりできるようになるかもしれません。

口座のポイントは月をまたぐごとに、残高が１％ずつ減るようにしておきます。赤血球が約 120 日で死に、また生みだされるように、お金も徐々に減価するようにします。全ての物に寿命があって、劣化するのが自然の摂理です。

減価分は税として徴収されます。

全ての細胞に無条件で血液が循環するように、全ての会員に無条件で、ベーシックインカムという基礎所得を支給します。

②③で集めた税がそれに充てられますが、全部をベーシックインカムに回すのではなく、一部はコミュニティ全体のために使います。

使い道は履歴が残るので、無駄遣いしていないかチェックできます。

このように、人体の循環システムを経済に応用してみると、様々な問題が解決できると予想されます。
このしくみで運営されるコミュニティを説明上、生体社会と呼ぶことにします。
今回は時間の制約上、経済システムだけの説明になりますが、企業のあり方や政治のしくみのヒントも見いだせると考えられています。

もし、こうした生体社会が実現したら、口座のポイントを使って、互いにできることで助け合うことができます。
資本主義の冷たいお金とは違った、人と人とを結びつける温かいお金が商品やサービスとともに人々の間を循環します。

血液が隅々の細胞にまで行き渡ります。細胞は臓器などになって、人体全体のために必要な仕事をします。
２つの肺が酸素を奪い合うことも、腎臓が奪い合うこともありません。
それと同じように、お金が全て人々に行き渡り、人は集まり企業となって、社会に必要な仕事をします。ひとりは全体のために、全体はひとりのために、One for all, all for one　というラグビーの精神が実現するような社会になると思います。

お金が循環しないのが、問題なんです。
「国民がお金をいつまでも貯めておかないようにする仕組みが必要だ」と経済学の権威も言っています。
この手法によって、お金を貯めておけないしくみが意外と簡単にできます。

お金には、「交換機能」と「貯蔵機能」があります。
そして、その両者は二律背反、トレードオフの関係です。
そのため、減価システムにより、貯蔵機能を弱めることは交換機能を高めることにつながり、景気が良くなります。
もし、パンを日本円でもこのポイントでも売っていたら、どっちを使いますか？　ポイントの方を先に使いますよね。

私たちは皆お金の奴隷のようです。

金持ちは金持ちなりに、貧しい人は貧しいなりに。

アリやハチといった社会的動物は、お金がなくても助けあって、社会を形成しています。

お金によって、人は公平に分業できるようになるはずでしたが、残念ながら、お金の奴隷となって、ある人は自分の心を偽り、人をお金儲けの道具として利用したりします。

富豪は使いもしないブランドバッグ、靴、高級車をいくつも持っています。それは利用するためのものではなく、自己満足のためであったり、人に見せつけるためであったりします。そのバッグと引き換えに、アフリカの子供が何人も救うことができるのに。

生体社会になっても貧しくなるのではありません。高級なものを所有するのではなく、みんなでシェアするのです。それが物が生かされることにもつながります。所有ではなく、使用できることが重要なのです。

仕事を奪い合わなくても、毎月のベーシックインカムが完全なセーフティネットとなって、安心して生活できます。でも、それでは豊かな生活はできないので、人や社会に貢献することによって、お金を稼ぎ、さらに豊かな生活をすることができます。

そこに、仕事の奪い合いはありません。貯蔵機能が弱いためです。

家事労働のように、社会で必要な仕事を分担し合い、分担に応じて報酬を受け取ればいいのですから。

その結果、仕事の総量が家事労働のように激減します。

税の申告が自動化するだけでも、社会全体の仕事の３割が減ると言われています。もちろん、公平感もアップします。人は貧しいことよりもアンフェアなことが許せないのです。

人生を振り返って、仕事に明け暮れたというのは悲しいです。マイホームを建てたというのも人生の対価としては満足できません。

生体社会は、家族の団欒や本当の人生を取り戻してくれます。

食料は有限な物質なので、貧しい人にまで行き渡らないことは仕方ないのかもしれません。しかし、音楽、映画、文学、プログラム、情報といったデジタルデータはそうではありません。

デジタルデータの最大のメリットは劣化することなく、容易に複製できることなのに、資本主義社会では優秀なクリエーターが儲けるべきということのために、貧しい人はそれにアクセスできません。

細胞の中にある DNA 情報は一種のデジタルデータですが、それは無料で容易に複製されます。ならば、生体社会でも、デジタルデータが全ての人に行き渡るようにするのが良さそうです。

当然、生体社会でも優秀なクリエーターがより多くの収入が得られる仕組みにすべきですが、その方法としては、ダウンロード数による評価、専門家による○○賞などの評価、ユーザーによる投票、好きなクリエーターへの寄付など、様々に考えられます。

世界は様々な問題を抱えていて、お金というただの紙切れやただの数字によって、滅亡の危機に瀕しています。

滑稽ではありますが、笑えない話です。

政治家も経済学者も明確な解決策を提示できていません。先日の ESD でも、希望ある画期的なアイディアは提示されませんでした。

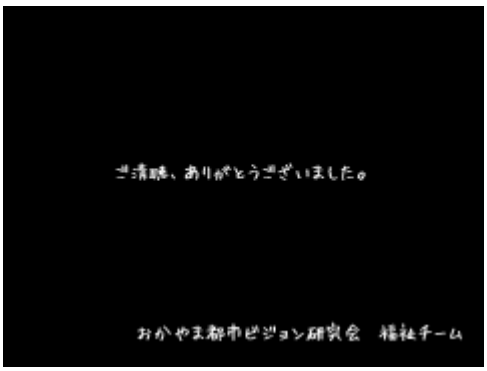
「ここ、岡山から持続可能な社会のヒントとなる画期的なしくみを提示する」。

バカバカしいと笑い飛ばすことは簡単ですが、他に画期的なアイディアが提示されない以上、私はこのアイディアで、持続可能な社会を創る活動をしていこうと、腹をくくっています。

まずは、岡山で有志を募って、このシステムの実証実験をしたいと考えています。そして、そこでのフィードバックを元に、実際にコミュニティを創りたいと考えています。

本日のプレゼンに興味を持ってくださった方はお気軽にご連絡ください。

このプレゼンのおさらいをしたいという方はダウンロードもできるようにしています。



ご清聴ありがとうございました。